

News Letter

自治医科大学地域医療オープンラボ Vol. 30 July, 2009

文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブ

生体肝移植—自治医科大学肝移植チーム

自治医科大学 医学部外科学講座（移植外科学部門）准教授 水田 耕一

移植医療には賛否両論があります。“優しさ”、“愛情”、“連携”などを想像させる医療ですが、「他人の臓器を頂いてまで生きたいとは思わない」と考える人は少なくありません。しかし、ご家族は、「自分の臓器の一部を提供してでも、あなたにもっと生きて欲しい」と思っています。その想いが生体移植の原点となっています。1989年に始まった本邦での生体肝移植は5000例に達し、多くの患者の生命を救い生活の質を改善させてきました。一方、1999年に第1例目の脳死肝移植行われて以来、2009年1月までの脳死肝移植は62例に過ぎず、肝移植の99%が生体移植で占めているのが現状です。自治医科大学では、2001年5月から2009年1月までに146回の小児生体肝移植を行ってきました。当院での肝移植治療の特徴を述べながら今後の課題に触れてみたいと思います。

1. 小児生体肝移植に特化した施設

本邦での小児肝移植は年間約120例が行われています。当院での年間肝移植数は24例（月に2例）ですので、全体の約20%を担当していることとなります。施設としての特徴は、①全例が18才未満の小児例であり小児に特化していること、②胆道閉鎖症が疾患の80%を占め、胆道閉鎖症に対する年間肝移植数は本邦最多であること、③OTC欠損症やアラジール症候群に対する肝移植数が他施設よりも多いこと、④ドナーへの再手術がなく、レシピエントの1年生存率、5年生存率がともに95%と世界的にも最高水準の生存率が得られていること、などです。

移植医療は、チーム医療の代表格でもあります。紹介病院、コーディネーター、移植外科、消化器外科、麻酔科、ICU、内科、小児科、放射線科、感染症科、病理部、薬剤部、輸血部、透析センター、看護師、放射線・検査技師、事務職など、一人の患者を救うために、何十人もメディカル・コメディカルスタッフが深く関わることとなります。2008年10月と11月には、生後30日以内、体重3kg未満の新生児劇症肝不全の2例に対し、緊急肝移植を施行し救命することができました。今回のようなリスクの高い緊急肝移植の場合は、関係各部署の方々のご理解とご協力、病院内外での迅速な連携が不可欠であり、皆様には多大なご負担をお願いすることとなります。当院での生体肝移植が維持できているのは、多くの皆様のご支援の賜物であり大学全体の力の結集です。日頃から治療に関わって頂いている全ての部署の皆様にご礼申し上げます。

(移植外科レシピエントチーム)



(消化器外科ドナーチーム)



2. 移植医療の将来

2008年5月に世界移植学会が中心となり世界78カ国152名の専門家が一同に集まった臓器移植サミットがイスタンブールで開催されました。そこでは、自国での脳死・心停止ドナーの普及、臓器売買の全面禁止、渡航移植の制限、生体ドナーの保護などが骨子となるイスタンブール宣言が発表されWHOもその指針を承認しています。渡航移植が制限されると、小児の脳死ドナーを禁じている現在の日本においては、小児の重症心筋症の患者は海外でも日本でも移植が受けられないという事態に陥る可能性もあります。

移植医療は、もはや他人事ではありません。皆様方も、心臓、肺、肝臓、腎臓、小腸、膵臓、角膜などの臓器移植を必要とする患者を実際に担当したり、外来で診察したり、あるいは家族の一員や当事者として、今後、移植医療と関わる可能性は十分にあります。生を望む患者に対して、「日本人として生まれてしまったので移植は諦めて下さい」という事態は避けなければなりません。本邦において「臓器提供の自給自足」を目指すためには、日本人一人一人の意識改革と、臓器移植法の早急な見直しが不可欠です。**(臓器移植法は2009年7月13日に改正案が成立しました)** それまでは、生体移植中心にならざるを得ません。我々は、全ての生体ドナーとレシピエントが、合併症なく普通に退院し、生涯に渡り普通に生活して頂くために、最高の医療を提供し続ける必要があります。生体肝移植とかかわっている医師としての矜持を持って、今後も、日々技術と知識を磨いていきたいと思います。

私の「学位記」

かみいち総合病院 副院長（富山1期） 戸島 雅 宏

卒業生の皆様は、自治医大の博士号の証書である「学位記」が2種類異なった文面になっていることはご存知だったでしょうか？大学院で研究された方が提出される甲種では「本学大学院医学研究科博士／課程において所定の単位を／修得し学位論文の審査及び／最終試験に合格したので博士（医学）の学位を授与する」の5行文でできております。

一方、大学院以外での研究論文を提出する乙種では「本学に学位論文を提出し／所定の審査及び試問に／合格したので博士（医学）の／学位を授与する」の4行文でなっております。私の場合、乙種の博士論文をいただきましたが、多くの卒業生も地域で仕事を続けているため学位を取得する場合は、長い時間と多大な労力をかけて、文面は多少短い乙



種の学位記をとる場合が多かったと思われま。今回短い文面の乙種学位ですが、結果には十分満足しております。なお地域で仕事を続けながら博士論文を作る道は、従来の乙種以外に、最近甲種のひとつとして社会人大学院制度が創設されましたので、検討することも一法と思われま。

卒後30年もたつて学位を申請した理由は、へき地勤務時にいただいた臨床の疑問を温め続けて、地域の病院勤務時に診療経験を重ねながら検討研究してきたわけですが、いつか結果をまとめておけたらと感じたからです。

日常の診療や学会報告で記憶に残る仕事は出来ていると実感できますが、記録に残るという意味で、博士論文作成が適当でないかと思いました。博士号は取得条件の高さを想像して気が引けがちですが、母校の相談窓口は最も敷居が低く、学位取得の相談がしやすいように思います。卒業後現役活動が約40年のライフスタイルの中で、博士号をどこかの時点で取得することは、本人にとって十分意義のあることと感じております。

専門医資格がにぎやかな現在のところ、専門医は更新しない時点で喪失するものです。博士号は生涯残るもの



かみいち総合病院（富山県上市町）



かみいち総合病院から立山連峰を望むことができます。真ん中の剣岳は2009年6月20日に全国ロードショーが始まった「剣岳 点の記」の舞台です。

でもあり、仕事のまとめをできる機会と考えて、「学位取得」を見直してみたいはいかがでしょうか？

自治医科大学社会人大学院制度

自治医科大学社会人大学院制度は、平成16年度 文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブに採択されたことを契機に、平成18年度より開始されました。地域の医療現場の課題を研究に結びつけることを目標に、地域で働きながら自治医大の大学院教育を受けることができる制度です。現在までに、毎年5～6名の方が入学されています。

社会人大学院制度の概要につきましては、ホームページ（「学校法人自治医科大学ホームページ」大学院医学研究科「社会人特別選択試験」）をご覧ください。地域医療オープン・ラボへお気軽にお問い合わせください。

自治医科大学大学院医学研究科

地域医療オープン・ラボ運営委員会

事務局 大学事務部学事課 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1

TEL 0285-58-7044 / FAX 0285-44-3625 / e-mail openlabo@jichi.ac.jp

<http://www.jichi.ac.jp/graduate/index.htm>